家族が交代でボランティア

2人のお子さんは、宇宙の学校®の卒業生

その後は、ご家族が交代でボランティアとして参加。

開校以来13年。ずっと参加する子どもたちを応援し、見守ってくださっています。

ご家族を代表して、柏野 和佳子 さん (母親) への一問一答です

宇宙の学校へはいつから参加しましたか?

立川で開校した2009年からです。

娘が小学3年生、息子が1年生の時に家族で参加させて いただきました。

印象に残る思い出は?

日食の時に木漏れ日を見ると、木漏れ日は、太陽の変形 するそのものを映し出していることを学びました。 2009年は日本国内で日食が観察できた年で、家族で実 際に観察できたことが良い思い出になっています。

実験は如何でしょう?

私は、「熱気球を作って飛ばす」が好きです。

みんなで一斉にカウントダウンし、気球が高く飛んだ 瞬間に歓声があがり、笑顔があふれる場面は、いつも 印象的です。



↑2010年5月立川市「宇宙の学校」熱気球おりて きた気球をキャッチしている柏野さん(ご主人)

ご主人や奥様はそれぞれ違う分野の研究者。お二人のお子様 も大学生になり、忙しい日々の中、快く参加してくださる姿 はとても爽やかです。

インタビュー 浅見 照美 (写真右下 前向き左)

夫は、「ポンポン船」を絶賛

バケツリレーで水を運び、大きな容器にためるなど、 ボランティアの作業はやや大変なのですが、熱によ って空気が膨張する原理をうまく使って船が実際に 前進する実験は、特に印象的だったと話しています。

東京都立川市

KU-MA 会員のご主人は開校当初からボランティア参 加してくださっていますね・・・

私は2014年6月から加わりました。

ご家族で参加して 良かったことを教えてください

子どもの頃より科学に触れること、興味をもてるや り方で関わることはとても大事なことだと、家族で 実感しています。それに引き続き携われることが純 粋に楽しく、ありがたい機会だと思っています。





ボランティアで参加中のご主人と参加している ↑写真上 2009 年開催模様 ご家族 (写真右)

写真下 2022 年立川市「宇宙の学校」開催模様(スタッフ紹介) 柏野さん母子が一緒にボランティア参加 娘さん(前向き左から4番目)ご本人(娘さんの右)

新型コロナと子どもたちI

-コロナ禍での教育現場の今を-



幼児たちの様子 理想的な行儀の良さなのに本来の姿 ではない黙食の姿に、胸が痛みます

さかいさちこ酒井幸子

(プロフィール)KU-MA 理事

現在、武蔵野短期大学客員教授・ 東京都公立幼稚園教諭・教頭・ 園長を歴任。

保育関連の著書も多数



↑昼食時の風景、たくさんの条件を

だった昼食風景は一変 ようにと、席を離し 同方向を向い れ、翻弄される中で、園活動は、 コロナ罹患者の増減が繰り返 防ぐ措置を取り実施

をしないで乗り越えてきました。 場所の移動等で、一つとして中止 さった一言は胸に響くものがあ は、分散、人数制限、規模の縮小 り実施してきました。多くの行事 感染を可能な限り防ぐ措置を取 したので…」としみじみ伝えて下

る毎に「何かがおかしい!」と感 のお母さん役を巡って揉めるな てカッコよく風を切る、ままごと 砂遊びに興じる、乗り物を駆使し 気といえば元気なのです。友達と 見変わりません。子どもたちは元 じることが増えてきました。 開されているのです と、何事もない日常の園風景が展 しかし、コロナ下の月日を重ね

姿ではない様子に胸が痛みます さであるにもかかわらず、本来の ちを見ると、理想的なお行儀の良 が私たちの仕事と言えば仕事で よ!」、こんな禁止文句を言うの 園活動は感染を可能な限り 「黙食」している子どもた おしゃべり一つするこ

体験の喪失が要因でしょうか 庭以外の育ちの場の減少や諸々 焦りを覚えます 貴重な支援の場を失ったことには 合う中でこそ得られる、保護者へ 懇談の機会は極端に減少し、関わ 保したものの、保護者同士の交流や さらに新たな心配が持ち上が ナ下の子どもたちをなお一層下 まだまだ取り戻せると信じて、 ロナ下で生まれた子どもたちの 新たな心配も 下で生まれた。入園の時期を迎えている、 とにかく幼い



こんな沢山の条件を幼い子ども

↑夜の幼稚園 キャンプファイヤーの模様